

宝が池シンポジウム

宝が池の森の今・未来を考える ～人のかかわりが森の姿を創りだす～



参加費：無料

平成25年1月13日(日)
午後1時～5時 (受付12時30分～)
京都府立大学 6号館ホール1

春にはツツジやサクラ、冬には美しいオシドリが訪れ、都市公園として多くの人々に親しまれている宝が池公園。

その森は、かつては私たちの暮らしに深く結びついた森でした。

森の糧を暮らしに役立て、子どもたちはその中であそび、自然と共に生きる知恵や技術が、次世代へと引き継がれていました。

そのしくみが途絶えて久しい現在、森の環境はナラ枯れやシカ害などにより急激に変化し、森の多様性が失われつつあります。

森をよみがえらせるためには暮らしと森の関わりを再構築することが大切です。

京（みやこ）を守り続けてきた森と人々が再び強く結ばれ、多様な命があふれる美しい森を未来へ引き継ぐ方法を、一緒に考えていきませんか？

主催 / (公財)京都市都市緑化協会・京都府立大学森林科学科